

2019 年度 支部長会・各種委員会活動報告

・ 支部長会	1 頁
・ 将来構想委員会	2 頁
・ 財務委員会	3 頁
・ 代議員選考委員会	4 頁
・ 企画・広報委員会	5 頁
・ 倫理委員会	6 頁
・ 利益相反委員会	7 頁
・ 編集委員会	8～10 頁
・ 全国集計委員会	11 頁
・ 認定医制度委員会	12～13 頁
・ 試験委員会	14 頁
・ ブラッシュアップ小委員会	15 頁
・ 教育・研修委員会	16～17 頁
・ 学会賞受賞者選考委員会	18 頁
・ 胃がん検診精度管理委員会	19～20 頁
・ 大腸がん検診精度委員会	21 頁
・ 検診従事者委員会	22～23 頁
・ 胃がん検診専門技師認定委員会	24 頁
・ 超音波検診委員会	25～26 頁
・ 腹部超音波検診判定マニュアルの改訂に関するワーキンググループ	27 頁
・ 胃 X 線読影補助認定委員会	28 頁
・ 大腸 CT 検査技師認定委員会	29 頁

支部長会

担当理事：渋谷 大助理事長

支部長：北海道 松浦邦彦

東北 加藤勝章

関東甲信越 入口陽介

東海北陸 乾和郎

近畿 平井都始子

中国四国 井上和彦

九州 松浦隆志

委員会開催：2回

1. 7支部における2019年度事業報告・会計報告ならびに2020年度事業計画・予算について報告があった。
2. 支部会則について
2020年4月1日より本部の運営規則において『一般会員A及び一般会員B』を統一し『一般会員』と改正するため、各支部においても支部会則について改正をお願いしたい旨説明があった。
3. COI申告書について
COI申告書については、学会発表者及び共同演者、論文投稿者等全員のCOI自己申告および開示をすることが規定されているが、各地方会において遵守されていないため、改めてCOI申告について各支部会員へ規定を遵守するよう周知を行った。
4. 会計マニュアルについて
地方会及び研修会の会計マニュアルを一部改定した。

将来構想委員会

担当理事：渋谷大助理事長

委員：乾 和郎、井上和彦、入口陽介、加藤勝章

委員会開催：1回

1. 内視鏡スクリーニング認定医について
日本消化器内視鏡学会の当該認定医制度の進捗と今後の動向に検討した。
2. 読影補助 e-learning について
読影補助認定制度の要件および医師研修会への運用について検討した。
3. 大腸 CT 検査技師認定制度について
規程などについて検討した。
4. 全衛連との共同事業「胃 X 線検査精度管理調査」における施設会員の取り扱いについて検討し、理事会に諮ることとした。
5. 対策型胃内視鏡検診の精度管理に関する WG の設置の提案があり、理事会に諮ることとした。

財務委員会

担当理事：乾 和郎

委員：井上和彦、小川眞広、永尾重昭

委員会開催：2 回

1. 2018 年度財務諸表の確認と審議

2. 2020 年度予算

本部の予算、7 支部予算の審議

1) 本部

○事業活動収入について

- ・正会員の減少及び総合認定医受験者、従来の認定医該当者数減少により減収を見込んでいる。
- ・旧一般会員 B の年会費アップ (2,000 円→5,000 円)、学術集会 (参加費、展示収入)、新規事業 (読影補助認定、大腸 CT 検査技師認定) により増収を見込んでいる。

以上の結果、事業活動収入は約 2 千万円余増収となる見込みである。

○事業活動支出について

- ・オンラインジャーナル化により印刷製本費、発送費は支出減を見込んでいる。
- ・総会では、会議費・運営費は支出増を見込んでいる。
- ・租税公課は消費税率アップのため支出増を見込んでいる。

以上の結果、事業・管理費支出は約 1 億円を見込んでいる。

2) 支部

○収入について

- ・支部運営経費は会員数による本部からの補助金が主収入であるが、一部の支部で賛助会費 (年会費) を徴収している。

○支出について

- ・支出は地方会、各種研修会の運営に伴う使途が主体であり、概ね昨年度実績を参考に計上されている。

3. 全体の収支について

法人全体では、正味財産期末残高は約 1 億 9 千万円余りとなり、前年度比で約 2 千万円余りの増収を見込んでいる。

4. 会計マニュアルについて

総会・大会・支部・地方会・各種研修会における会計マニュアルを一部改訂した。

代議員選考委員会

担当理事：小川眞広

委員：藤谷幹浩（北海道）、戸掘文雄（東北）、河合 隆（関東甲信越）、後藤裕夫（東海北陸）、辰巳嘉英（近畿）
日山 亨（中国四国）、金城 渚（九州）

委員会開催：1回（メール審議）

1. 2020年度新規代議員候補者の選出

申請された26名（北海道1名、東北10名、関東甲信越9名、東海北陸1名、近畿1名、中国四国4名）について基準に照らし合わせ審査した結果、全員を候補者として代議員会に諮ることとした。

2. 代議員改選について

辞退および定年を除く全員を再任候補者として代議員会に諮ることとした。

3. 功労会員候補について

改選期に定年となる代議員10名について、定款第6条により支部長または代議員10年以上活躍があったので、功労会員と候補者として代議員会に諮ることとした。

企画・広報委員会

担当理事：松浦隆志

顧問：吉原正治

委員：鎌田智有、齋藤洋子、平井都始子、平賀聖久、満崎克彦

委員会開催：1回

1. ホームページ運用状況報告

- ・ 昨年の年間アクセスの上位はお知らせ、学術集会、認定制度などで、一般の皆様では胃がんリスク評価に関する記事にアクセスが多かったようである。用語集もアクセスが増えた。

2. 学会誌ペーパーレス化に伴う HP の改修について

- ・ 学会誌冊子体の廃止に伴い、メールアドレスの収集を開始した。
- ・ 会員ページを新設し、会員情報の一部を閲覧修正できるよう構築した。
- ・ 会員ページについては、年会費未納者はアクセス制限をかける。

会員への周知のため、メールアドレスは引き続き、収集努力を行なっていく。

3. 学会の企画運営に関する事項について

委員より以下の意見があり、理事会で検討してもらうこととなった。

- ・ 読影技師の e-learning コンテンツの今後の応用については関係委員会で検討してもらってはどうか。
- ・ 一般会員に統一を機に入会メリットなどの告知を行なってはどうか。
- ・ 冊子体廃止に伴い、総会などの抄録集は従来どおり会長で作成し、学会会場で販売という形を継続してはどうか。

倫理委員会

担当理事：岡 政志

副委員長：大西洋英

顧問：乾 和郎

委員：小林 隆、川口 淳、齋藤洋子、阪上順一

外部委員：久津見 弘、若林昭子、亙理 茂

委員会開催：2回（うち1回持ち回り）

1. 委員会名改称

倫理審査委員会から倫理委員会に改称された。

2. 倫理審査

2件の申請があった。

3. 倫理指針について

本学会倫理指針をJDDW2020の倫理指針に合わせ2020年2月28日に改正した（施行日：2020年4月1日）。

4. 審査手順書および関連書類について

迅速審査該当研究審査手順書（第8条）を一部変更した。

5. 倫理指針に関する講演会について

第58回総会（岡山）で倫理指針に関する講演会が開催された。

「臨床研究実施に必要な規制に関する知識」

演者：久津見弘（滋賀医大 臨床研究開発センター）

司会：渡邊能行（京都先端科学大学健康医療学部 看護学科）

6. 倫理審査に関する講演会の受講証について

第59回総会（福岡）より「倫理審査に関する講演会」より受講証を配布し、本学会が推奨する倫理に関する教育に加えることになった。

7. その他

日本医療研究開発機構（AMED）に登録した。

利益相反委員会

担当理事：乾 和郎

委員：上野義之、阪上順一、西田 博、西野善一、源 利成

外部委員：亙理 茂

委員会開催：2回（メール審議）

1. COI 申告書に関する問題点について

- ・申告書提出依頼文書の発送時期と依頼文書内容について検討し、依頼文書は一部訂正し、申告書の依頼は毎年7月以後に発送することとした。
- ・地方会会長には、支部長から事業計画を提出された時点で申告してもらおう。

2. 学会発表におけるCOI 申告書の扱いについて

運営会社に学会終了後にまとめて提出してもらおうこととなった。

なお、COI 申告が無い場合は、申告書の提出は不要、スライド開示のみとする。

3. 申告書提出者の対象に関する規定について

学会のCOI 申告書における特定委員会を次のとおり8委員会とした。

一運営調整委員会、財務委員会、編集委員会、倫理委員会、利益相反委員会、将来構想委員会、
教育・研修委員会、学会賞受賞者選考委員会

4. 指針と細則について

内科学会の共通指針の改正により、学会の指針・細則について検討し改正を行うこととした。

編集委員会

担当理事：西田 博

委員：安保智典、石川 勉、井岡達也、伊藤高広、岡庭信司、金岡 繁、鎌田智有、阪上順一、鈴木康元、中島滋美、
廣岡芳樹、間部克裕、安田 貢、山道信毅、渡 二郎

委員会開催：11回（うち9回持ち回り）

1. 原稿依頼について

執筆依頼を下記演者に行った。

・総会、大会：主題、一般演題（デジタルポスターセッション）は、司会（座長）推薦の演題。

・地方会：主題は、司会推薦の演題。

2. 投稿・査読状況

(1) 年度別投稿数の推移

年度	総投稿数	会長講演	総説	原著	経験	症例報告	この症例に学ぶ	Letter to the Editor
2017	42	2	0	35	4	1	0	0
	投：14 依：28	依：2		投：13 依：22	投：1 依：3	投：0 依：1		
2018	34	1	1	25	3	4	0	0
	投：12 依：22	依：1	投：0 依：1	投：8 依：17	投：1 依：2	投：3 依：1		
2019	43	2	3	30	2	5	0	1
	投：16 依：27	依：2	投：0 依：3	投：12 依：18	投：0 依：2	投：3 依：2		投：1 依：0

(2) 2019年度論文種別別新規投稿数および採択論文数

（投稿期間 2019. 4. 1～2020. 3. 31、採択率 2020. 5. 18 現在）

種別	新規投稿数	2019年度採択・不採択論文数 内訳		
		採択数	不採択数	採択率
会長講演	2	2	0	100%
総説	3	2	0	67%
原著	30	21	1	70%
経験	2	1	0	50%
症例報告	5	3	1	60%
この症例に学ぶ	0	0	0	0%
Letter to the Editor	1	1	0	100%
計	43	30	2	70%

注）審査中の論文があるので採択数と採択率は高まる可能性がある。

(3) 論文受付から初回審査結果までの平均査読日数

平均査読日数
25.0日

3. 総説について

総合認定医制度が発足し、区分の垣根なく広く消化器がん検診の情報を総説で提供するために総会、大会、地方会の特別講演、教育講演等の先生に依頼を広げる。

4. 掲載内容について

1) 論文内容の最終確認は、持ち回り委員会に於いて行った。

2) 主な掲載は下記のとおりである。

- ・57巻3号は巻末に「第58回総会プログラム・抄録集」を掲載した。
- ・57巻5号は第56回大会の会長講演を掲載した。
- ・57巻suppl号は「第57回大会（JDDW2019）プログラム・抄録集」を掲載した。
- ・57巻6号は、第55回大会の会長講演、委員会報告「平成28年度全国集計報告」「全国集計報告（第58回総会（岡山）」「平成28年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告」を掲載した。
- ・58巻1号からの機関紙電子化に伴い、地方会抄録は58巻2号に7支部の抄録を掲載した。

5. 投稿規定について

1) 投稿規定を2019年11月11日改正し、2020年1月1日施行した。主な改正内容は下記のとおりである。

○投稿資格

- ・生物統計家が研究や論文作成に貢献した場合は、共著者に含めてもよい。この場合も、本学会員である必要はない。

○投稿内容

- ・「消化器がん検診についての研究に関する倫理指針」の遵守についてカバーレターに明確に記載すること。
- ・カバーレターと論文の「対象と方法」の最後に明記すること。なお、倫理審査委員会の承認番号も付記すること。
- ・未承認の薬剤の投与や未承認の診断技術等を用いる場合は、厚労大臣の認定を受けた認定臨床研究審査委員会で承認が得られていること、またその旨を「対象と方法」の最後に明記すること。

○論文の採択

- ・投稿論文の採否は編集委員会が指名した査読者（2名以上）による peer review をもとに編集委員会が決定し、著者に通知する。
- ・医学用語は消化器がん検診学会用語集第3版（2019）改訂版（学会ホームページ参照）に掲載された用語を用いることが望ましい。

○原稿様式

- ・外国人名、または化学品名（薬品名は一般名を用いることが望ましい。やむを得ず商品名を用いる場合は薬品名の最後に上付き^{*}を添えること）などの科学用語は原語を用いる。

○共著者数の既定（原著 制限なし、経験 10名、症例報告 10名、この症例に学ぶ 10名、総説 3名）

○原稿作成

- ・本文の内容の概略が把握できるよう可及的に定量的表現を用いること。
- ・原著論文の要旨（日本語、英語）を構造化（目的、対象と方法、結果、考察、結語）する。
- ・要旨文字数の増加（日本語 500文字以内、英語 400words 以内にする）
- ・文献の記載は著者の責任において正確を期すこと。規定に合わない場合は受理できない。

○カラー掲載料と別冊

59巻1号からの機関紙電子化に伴い、カラー掲載料は無料とした。なお、別冊は作成しないため別冊の記載は投稿規定から削除した。

2) 句読点の統一について投稿規定に追加した（施行日：2020年2月5日）。

6. corresponding author について

- ・58巻1号より論文下段にcorresponding authorの氏名とメールアドレスが公開した。
- ・Scholar One画面に筆頭著者（first author）の他に責任著者（corresponding author）を設けた。

7. 機関誌ペーパーレスについて

第58巻1号（2020年1月15日発刊号）より冊子体を廃止し、電子書籍サービスKaLibを導入した。

8. 用語集改訂について

2019年10月に「消化器がん検診用語集第3版（2019）」を学会HPにPDF形式（五十音順、アルファベット順）で公開した。
5分野（精度管理・疫学、胃がん検診、大腸がん検診、超音波検診、その他）とした。

9. 機関誌掲載論文数

掲載論文数 32 編（内訳：投稿 11、依頼 21）

10. 機関誌掲載内訳

	第57巻3号～第58巻2号 (2019年度)	第56巻3号～第57巻2号 (2018年度)	増減△
発刊号数	6号+suppl	6号+suppl	0号
総頁数*	836頁	828頁	8頁
総説	2編	0編	2編
原著	21編	21編	0編
経験	4編	4編	0編
症例報告	2編	1編	1編
この症例に学ぶ	0編	0編	0編
Letter to the Editor	0編	0編	0編
会長講演	3編	0編	3編
特別講演	0編	0編	0編
地方会抄録	7編	8編	△1編
委員会報告	3編	3編	0編
附置研究会報告	0編	0編	0編
総会プログラム・抄録集	117頁	127頁	△10頁
大会プログラム・抄録集	296頁	332頁	△36頁

全国集計委員会

担当理事：水口昌伸

委員：入口陽介、大黒隆司、小川眞広、大泉晴史、中島滋美、丹羽康正、藤谷幹浩、松浦隆志

幹事：宮川国久

委員会開催：2回（うち持ち回り1回）

1. 2016年度（平成28年）全国集計について

1) 協力施設について

2015年度より40施設ほど減少し、333施設となった。

2) 集計結果報告について

・2015年度に比べ、集計数が大幅に減少している。胃がん発見率は0.07%、要精検率5.7%と昨年度と比べ差は見られない。

精検受診率は上がっている。大腸がんについても、同じような傾向となっている。

・内視鏡検診に関しては50万件となっている。2016年度より対策型内視鏡検診が導入されるので、今後、増えていくことが考えられる。調査内容についての検討が必要となるだろう。

2. 2017年度（平成29年）全国集計について

1) システム改修について

- ・超音波検診受診者数について、集計システムに受診者数を入力する項目がなかったため、カテゴリー判定の受診者数をすべて合計した数値になっていた。
- ・2017年度の集計調査より、受診者数の入力画面を改修することとなった。

2) 胃癌・大腸癌取扱い規約改訂に伴う集計システムの見直しについて

- ・胃癌および大腸癌の調査票について、取扱い規約の通り改修を行うこととなった。
- ・胃癌の調査票に「総合所見」が抜けていたため、2017年度集計調査に追加する。
- ・集計システムの変更時期は、業者の改修作業が整い次第行うこととする。また、施設側がすぐに対応出来るとは限らないため、全国集計調査依頼状等で調査票改定の案内する。

3. その他

- ・これまで全国集計調査の年度を元号で記載してきたが、2019年度より西暦での表示を検討する。
- ・内視鏡検診については都道府県各市の医師会単位でデータをまとめているので、医師会にデータを要請してはどうか、との意見があった。

認定医制度委員会

担当理事：入口陽介

顧問：一瀬雅夫

副委員長：大西洋英、松田一夫

委員：石川 勉、岡 政志、金岡 繁、杉山和久、戸堀文雄、中島滋美、中島寛隆、日山 亨、平賀聖久、藤谷幹浩

委員会開催：5回（うち3回持ち回り）

1. 2019年度新規認定医審査

支部審査委員会の結果を踏まえて認定基準を基に審査を行い、下記のとおり承認した。

北海道支部 1名 東北支部 2名 関東甲信越支部 9名 東海北陸支部 2名
近畿支部 4名 中国四国支部 5名 九州支部 3名 計 26名

2. 2019年度新規指導医・指導施設審査

基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認した。

指導医 10名 指導施設 4施設

3. 2019年度認定医更新審査

基準に基づいて認定更新審査した結果、下記のとおり承認した。

認定更新 86名 終身 25名 計 111名

4. 2019年度指導医・指導施設更新結果

基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認した。

指導医 37名 指導施設 12施設

5. 2019年度指導施設状況確認

136施設における認定医・指導医の在籍状況を行ったところ126施設は要件が満たされていた。保留は10施設であったが保留期限を設けないことが本委員会で確認された。

6. (従来の) 認定医認定基準改正について

医師研修会の開催概要変更に伴い、「認定医基準」および「経過措置の認定基準」を改正した（施行日：2019年10月17日）。2020年度の新規申請より適用する。

認定基準（従来）

3. (3) 学会主催（総会時）の医師研修会に半日の研修会1回以上またはJDDW教育講演に半日単位2回以上の参加があること。

認定基準（経過措置）

3. (3) 本学会主催（総会時）の医師研修会に半日の研修会2回以上、あるいは全日の研修会1回以上の参加があること。
ただし、2019年度までの胃X線読影講習会は半日の研修会とみなす。

7. (区分毎の) 認定医制度における終身認定医について

- ・終身認定医の新規認定は2022年まで行う。
 - ・終身認定医に対する要件としての活動状況報告書は5年後の2027年より実施する。
- 以上を踏まえ、更新施行細則一部改正ならびに終身認定医施行細則新設（案）を検討した。

8. 総合認定医制度規則について
更新に関する施行細則（第3条2）に更新単位取得期間を追記した（施行日：2019年10月17日）。
9. 第2回総合認定医試験について
142名の合格を承認した。
10. 医師研修会のあり方について
 - ・本部、支部の研修会共、Aセッション、Bセッションの定義で割り振り、カリキュラムに則った運営をするのが本来の医師研修会の形である。支部から研修会計画を提出していただき、5年間の医師研修会（本部、支部）のスケジュールを計画すべきである。
 - ・支部医師研修会は財政的に全国から著名な先生を講師に招くのは難しいのでためカリキュラムに則った教育が難しい。
e-learningを活用すれば統一した教育を提供することができるのではないか。
→上記について教育・研修委員会で検討を行っていただくことになった。
11. その他
胃がん内視鏡検診を行っている自治体に案内に本学会学術集会の案内を送付し、本学会の存在を示すことが重要ではないか、提案された。

試験委員会

担当理事：松田一夫

委員：非公開

委員会開催：2回

1. 第2回総合認定医試験実施について

1) 日時：2020年1月26日（日）13：00～15：50

2) 会場：砂防会館別館シェーンバッハ

3) 受験者：156名

4) スケジュール

12：00～12：45 受験者入室（12：50までに着席）

12：50～13：00 説明、問題冊子・解答用紙配布

13：00 講義および試験開始

前半（総論，胃）

13：00～13：20 総論の講義：松田一夫

13：20～13：35 総論の試験（10題）

13：35～13：55 胃の講義：井上和彦

13：55～14：10 胃の試験（10題）

14：15～14：30 休憩

後半（大腸，肝胆膵）

14：30～14：50 大腸の講義：西田 博

14：50～15：05 大腸の試験（10題）

15：05～15：25 肝胆膵の講義：乾 和郎

15：25～15：40 肝胆膵の試験（10題）

15：50 終了

5) マークシート読み込み結果に基づき、合格ラインの判定を行った。

2. 第3回総合認定医試験について

1) 開催日時

2021年1月10日（日）砂防会館にて実施予定。

2) 試験前講義

第1回、第2回と同様の形式で行う。

3) 作問委員

作問委員の選出

3. 第4回総合認定医試験について

2022年1月9日（日）砂防会館シェーンバッハを仮予約した。

ブラッシュアップ小委員会

担当理事：松田一夫

委員：非公開

委員会開催：2回（うち持ち回りは1回）

1. 第2回総合認定医試験問題について

総論、胃、大腸、肝胆膵の各分野から選出された問題について1問ずつ確認し、各10題を確定した。

主な修正点

- ・問題文、選択肢の文をできるだけ短くする。
- ・文言の統一
- ・画像の大きさの確認
- ・重複問題の確認

教育・研修委員会

担当理事：井上和彦

委員：小川眞広、河合 隆、謝花典子、永田浩一、日山 亨、間部克裕、安田 貢、山道信毅

委員会開催：3回（うち持ち回り2回）

1. 2019年度医師認定研修会と胃X線読影講習会について

第58回総会（岡山）時に下記のとおり開催された、

・第34回医師研修会

開催日時：2019年6月8日（土）9：00～12：00

参加者：163名

プログラム

司会：井上和彦（教育・研修委員会委員長）

総論（60分） 松田一夫（福井県健康管理協会）

胃（30分） 安田 貢（KKR 高松病院）

大腸（30分） 金岡 繁（浜松医療センター）

肝胆膵（30分） 平井都始子（奈良医科大学）

・第8回胃X線読影講習会

開催日時：2019年6月8日（土）13：30～17：00

参加者：153名

プログラム

講義1：背景粘膜診断について（40分）

中島滋美（JCHO 滋賀病院）

講義2：胃X線検診発見癌に学ぶ読影のポイント（40分）

小田丈二（東京都がん検診センター 消化器内科）

読影演習オリエンテーション（30分）

渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

読影演習（60分）

渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

読影演習解説（20分）

渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

2. 2020年度（第59回総会：福岡）からの医師研修会について

2020年度より総会時の医師研修会は全日制となり、下記の概要で開催する。

1) 総会2日目午後（Aセッション）：総論、胃、大腸、肝胆膵分野の消化器がんが基本

総会3日目午前（Bセッション）：最新のトピックス

2) 受講料半日 8,000円、全日 15,000円とする。

3) 修了証書はそれぞれ単独で発行し、半日単位で単位を付与する。

3. 2020年度第1回医師研修会について

第 59 回総会（福岡）時プログラムを企画した。

・ Aセッション

開催日時：2020 年 6 月 6 日（土）午後

総論（対策型検診の基本的な考え）（60 分）

渡邊能行（京都先端科学大学 健康医療学部看護学科）

胃がん検診（内視鏡含）の総論（30 分）

加藤勝章（宮城県対がん協会がん検診センター）

大腸がん検診の総論（30 分）

野崎良一（大腸肛門病センター高野病院 消化器内科）

肝胆膵（腹部超音波検診判定マニュアルの改訂について）（30 分）小川真広（日本大学病院 消化器内科）

・ Bセッション

開催日時：2020 年 6 月 7 日（日）午前

総論（最近の国際的動向を含めて）（40 分）

菊地正悟（愛知医科大学医学部 公衆衛生学講座）

胃 X 線読影（40 分）

安保智典（合同会社メディカル・イメージ・コンサルティング）

胃内視鏡検診（25 分）

間部克裕（淳風会健康管理センター）

大腸 CT（25 分）

永田浩一（福島県立医科大学 消化器内科）

膵がん早期発見をめざして（25 分）

井岡達也（山口大学医学部附属病院腫瘍センター）

4. 支部医師研修会について

各支部における地方会ならびに支部医師研修会の扱いが様々であるため統一されたプログラムでの実施が難しい。次年度より総会時の医師研修会を録画し資料として蓄え、将来的に各支部の研修会で聴講できるようにする。

5. JDDW 教育講演関連委員会

消化器がん検診に関するテーマは取り上げられることはなかったが JDDW2019 教育講演で「胃がん内視鏡検診の現状と課題」が採用され、井上和彦先生が講師を務めた。

学会賞受賞者選考委員会

顧問：森山光彦

担当理事：濱島ちさと

委員：大西洋英、謝花典子、古田隆久、松田尚久

委員会開催：1回

1. 有賀記念学会賞選考について

該当者なし。

2. 学術奨励賞選考について

日本消化器がん検診学会雑誌の掲載論文の中から優れた論文を委員より推薦を受け、選考を行い、理事会に答申した。

《受賞者と対象論文》

学術奨励賞 3名

- ・丸尾 達（福岡大学筑紫病院消化器内科）

対象論文：膵管癌における超音波内視鏡関連検査は効率的な精検方法である（56(3)）

- ・権頭健太（東京大学医学部付属病院消化器内科）

対象論文：H.ピロリーラテックス「生研」の胃癌リスク判定における有用性の検討（56(5)）

- ・重松 綾（こころとからだの元気プラザ）（放射線技師）

対象論文：フラクタル次元を用いた *Helicobacter pylori* 感染の胃 X 線画像診断（56(5)）

3. 国際研究助成及び国際学会参加支援について

本年度は対象者なし

4. 学術奨励賞規定について

若手の育成を目的に設立された経緯を踏まえ、次のとおり一部改正し、理事会に諮ることとなった。

第3条 この賞の対象は一般社団法人日本消化器がん検診学会誌に発表された秀れた論文の中から 60歳未満の筆頭著者を推薦する。

胃がん検診精度管理委員会

担当理事：加藤勝章

委員：安保智典、伊藤高広、小田丈二、鎌田智有、平川克哉、水口昌伸、吉村理江、山道信毅

委員会開催：3回（うち持ち回り2回）

1. 偶発症調査について

平成28年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告を57巻6号に掲載した。

胃X線検診では腸管穿孔等の報告はあるものの死亡例はなかった。内視鏡検診では鼻出血が一番多いが、重篤な結果になった症例はなかった。

2. 第8回胃X線読影講習会について

第58回総会（岡山）時に下記のとおり開催された、

開催日時：2019年6月8日（土）13：30～17：00

参加者：153名

プログラム

講義1：背景粘膜診断について（40分）	中島滋美（JCHO 滋賀病院）
講義2：胃X線検診発見癌に学ぶ読影のポイント（40分）	小田丈二（東京都がん検診センター 消化器内科）
読影演習オリエンテーション（30分）	渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）
読影演習（60分）	渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）
読影演習解説（20分）	渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

3. 認定技師による胃X線検診読影補助認定制度について

- ・NPO 日本消化器がん検診精度管理評価機構と共同事業の予定であったが、NPO 精管構から読影補助認定の受け入れ人数の制限が必要との回答があった。また、本学会が目指す読影補助に関する考え方と方向性の相違から、本学会独自で制度設計を行うことになった。
- ・胃X線読影補助認定委員会とe-learning小委員会を新設した。

4. 「読影補助のため胃X線読影判定区分運用マニュアル（仮）」の刊行について

編集委員が選出された。次年度刊行を目指す。なお、有料化せず、PDF配布などで行う予定。

幹事：安保智典

委員：伊藤高広、入口陽介、小田丈二、加藤勝章、安田 貢

5. 内視鏡検診の精度管理について

内視鏡検診に関する精度管理指標などの整備を附置研と連携して検討していく。

6. その他

- ・平成 30 年度胃 X 線検査精度管理調査実施（全国労働衛生団体連合会との共同事業）について報告された。
- ・全国労働衛生団体連合会と胃 X 線検査精度管理調査参加料等について打ち合わせ会議を行った。
- ・RIME 調査協力に関する小委員会「胃 X 線検診における DRL（診断参考レベル）策定小委員会」（仮称）を設置することになった。

大腸がん検診精度管理委員会

担当理事：野崎良一

副委員長：鈴木康元

顧問：斎藤 博、樋渡信夫

委員：金岡 繁、関口正宇、只野敏浩、永田浩一、西田 博、松浦邦彦、松田一夫、松田尚久、山口和也

委員会開催：1回

1. 大腸がん検診マニュアル（2013年）マニュアル改訂について

- ・大腸内視鏡検診が導入される可能性を踏まえ、大腸内視鏡検査の精度評価指標を検討し、大腸がん検診マニュアル（2013年）の改訂版を作成する際に記載する。
- ・大腸内視鏡検査の精度評価指標にはADR（adenoma detection rate）や引き抜き時間があるが、日本ではデータが殆ど報告されていなかったが、鈴木副委員長と永田委員が中心となり、日本の施設毎の平均ADRを、検査目的別（検診/診断/サーベイランス）に把握するための多施設共同研究を開始した。回答期限は今年度内とする。

研究計画の概要

- ・集計対象：直近1年間に各施設が行った検診/診断/サーベイランス目的の内視鏡検査
- ・調査項目：以下について、施設単位の情報を、検査目的別に収集する

受診者数（男女別）、腺腫またはがんが一つでも発見された受診者数（男女別）、平均年齢（男女別）、内視鏡を実施した医師数、内視鏡担当医の大腸内視鏡検査の平均経験年数、消化器内視鏡専門医の数、日本消化器内視鏡学会の指導施設認定の有無、施設区分（アカデミック施設/一般病院/クリニック/検診施設）

- ・回答期限：2019年度内

2. 大腸CT検査技師認定制度について

昨年まで本委員会の検討課題であった大腸CT検査の認定事業（技師認定、施設認定）については、「大腸CT検査技師認定委員会」で検討していく。

3. 大腸がん検診附置研究会（第58回総会：岡山）

当番世話人：金岡 繁（浜松医療センター 消化器内科）

山口和也（ちば県民保健予防財団 消化器内科）

「便潜血検査免疫法のカットオフ値を考える」をテーマに議論がされた。

4. 大腸がん検診附置研究会（第59回総会：福岡）

当番世話人：鈴木康元（松島病院大腸肛門病センター松島クリニック）

松田尚久（国立がん研究センター中央病院検診センター）

テーマ：大腸内視鏡検診の精度管理評価指標

検診従事者委員会

(委員構成：支部推薦の認定医、認定技師、保健師)

担 当 理 事：松浦邦彦

委 員：萩原 武・小牟田学・小野寺紀代美（北海道） 加藤勝章・大友義孝・吾妻明子（東北）

小田丈二・見本真一・小川敬子（関東甲信越） 丹羽康正・西川 孝（東海北陸）

伊藤高広・藤山孝之（近畿） 安田 貢・大久保誠（中国四国） 満崎克彦・石本裕二・池田晶子（九州）

委員会開催：3回（うち持ち回り1回）

1. 2020年度総会時の放射線フォーラムについて

1) プログラム

・シンポジウム「読影補助のエビデンス —追加撮影の在り方と重要性」

・症例検討会

2) 司会は、近畿支部の伊藤高広委員・藤山孝之委員が推薦された。

2. 2019年 第4回胃がん検診専門技師研修会について

2019年10月26日（土）10：00～16：00 神奈川県横浜市のはまぎんホールヴィアマールにて開催された。参加者人数は249名であった。

プログラム

・講 義 I 「認知科学に基づいた熟練技師の異常認識」

講師：西川 孝 司会：大久保誠

・講 義 II 「撮影困難受診者に対する技師の心理学」

講師：原田淳也 司会：小牟田学

・スポンサードセミナー「H.ピロリ抗体検査の現状～ABC検診におけるH.ピロリ検査～」

講師：大嶋 彰 司会：宮田和則

・教育講演 I 「胃X線検査は不要となるのか？：リスク検診の真実」

講師：一瀬雅夫 司会：見本真一

・教育講演 II 「今後求められる読影補助とは：カテゴリーの運用」

講師：伊藤高広 司会：大友義孝

・症例検討会「アンサーパッドを用いた粘膜判定・カテゴリー分類の試験」

講師：千葉隆士 司会：石本裕二

3. 2020年 第5回胃がん検診専門技師研修会について

下記要綱にて第5回胃がん検診専門技師研修会を開催することになった。

日 時：2020年10月18日（日）9：45～16：05

場 所：全電通労働会館

対 象 者：日本消化器がん検診学会 胃がん検診専門技師認定資格保有者および更新保留中の者

受 講 料：3,000円

定 員：300名

申 込 期 間：2020年6月8日（月）～7月31日（金）

申 込 方 法：学会ホームページにてオンライン事前申込

付 与 単 位：胃がん検診専門技師認定更新6単位

実行委員長：松浦邦彦（日本消化器がん検診学会 検診従事者委員会委員長）

代表世話人：小牟田学（北海道）・見本真一（関東甲信越）

世 話 人：萩原 武（北海道）大友康孝（東北）西川 孝（東海北陸）中川泰二（近畿）大久保誠（中国四国）

石本裕二（九州）

会 計 監 査：伊藤高広（医師・近畿）

4. 全国における保健師研修会について

2019年度は、7支部中5支部で保健師研修会が行われるようになり、各支部の保健師に勉強の機会が出来た。

胃がん検診専門技師認定委員会

(委員構成：保健師を除く検診従事者委員が兼務)

担 当 理 事：松浦邦彦

委 員：萩原 武・小牟田学（北海道） 加藤勝章・大友義孝（東北） 小田丈二・見本真一（関東甲信越）
丹羽康正・西川 孝（東海北陸） 伊藤高広・藤山孝之（近畿） 安田 貢・大久保誠（中国四国）
満崎克彦・石本裕二（九州）

委員会開催：1回（持ち回り）

1. 2019年度認定審査結果

1) 基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認された。

申請者 254名（合格者252名、不合格者2名）

なお、不合格者2名は、審査料を翌年のみ繰り越すことを認める。

2) 252名に認定証を交付した。

2. 2019年度認定技師更新審査結果

1) 基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認された。

更新該当者 577名（合格者454名、認定保留73名、不合格者4名、認定取消50名）

なお、不合格者4名は、審査料を翌年のみ繰り越すことを認める。

2) 更新合格者454名に認定証を交付した。

3. 更新単位「その他主催」研究会・研修会

1) 以下2つの研修会が承認された。

(1) 秋田消化管撮影研究会（東北）

(2) NPO 日本消化器がん検診精度管理評価機構東海北陸支部学術研修会（東海北陸）

2) 以下2つの研修会の名称が変更された。

(1) 「成人病検診従事者指導講習会」→「胃がん検診エックス線撮影従事者講習会」（東北）

(2) 「静岡胃疾患研究会」→「静岡消化管疾患研究会」（東海北陸）

超音波検診委員会

担当理事：平井都始子

顧問：田中幸子

委員：乾 和郎、岡庭信司、小川眞広、小島正久、中島美智子、水間美宏、三原修一

各支部委員：久居弘幸、千葉祐子（北海道） 小野寺博義、佐藤 務（東北）

若杉 聡、鳥海 修（関東甲信越） 廣岡芳樹、西川 徹（東海北陸）

西村重彦、森 雅美（近畿） 眞部紀明、渡邊敏充（中国四国）

西 潤子、平賀眞雄（九州）

委員会開催：1回

1. 第59回総会（福岡）プログラムについて

次年度のワークショップ、超音波フォーラムなどを企画した。

○ワークショップ

「カテゴリー改訂のポイントと現状報告」

司会：平井都始子（奈良県立医科大学 放射線科総合画像診断センター）

小川眞広（日本大学医学部内科学系 消化器肝臓内科学分野）

岡庭信司（飯田市立病院 消化器内科）

○超音波フォーラム

・教育講演（膝領域）

花田敬士（JA 広島厚生連尾道総合病院）

司会：乾 和郎（山下病院）

・症例報告「偽陰性癌から学ぶ」

司会：若杉 聡（浅草病院 消化器内科）

平賀眞雄（佐藤医院/US パートナー）

・QUIZ session

司会：岡庭信司（飯田市立病院 消化器内科）

千葉祐子（北海道労働保健管理協会）

川端 聡（住友病院 診療技術部超音波技術科）

・ライブデモ

司会：西村重彦（住友病院 外科）

西川 徹（藤田保健衛生大学病院 臨床検査部超音波センター）

2. 平成28年度全国集計について

平成27年度全国集計よりWEB集計になったが、受診者数を臓器ごとに記入する方式になっていたるので次年度より受診者数を入力、その総数が各臓器に反映されるよう改修する。

3. 日本超音波医学会第 92 回学術集会

共同企画（日本超音波医学会・日本消化器がん検診学会・日本人間ドック学会）

テーマ：カテゴリー判定を活かす -腹部超音波検診判定マニュアルの現状と改訂に向けて-

日時：2019 年 5 月 25 日(土) 13:20 ~14:50

会場：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール

座長：岡庭信司（飯田市立病院 消化器内科）

川端 聡（住友病院 診療技術部超音波技術科）

4. 日本人間ドック学会第 60 回学術大会

共同企画（日本人間ドック学会・日本消化器がん検診学会・日本超音波医学会）

テーマ：腹部超音波検診判定マニュアルの改訂に向けて：アンケート調査から見えた課題

日時：2019 年 7 月 25 日(木) 10:50~12:30

会場：岡山県医師会会館

座長：田中幸子（大阪がん循環器病予防センター）

平井都始子（奈良県立医科大学 放射線科総合画像診断センター）

腹部超音波検診判定マニュアルの改訂に関するワーキンググループ

担当理事：平井都始子

委員長：小川真広

顧問：小野寺博義、熊田 卓、小島正久、田中幸子、中島美智子、水間美宏

委員：乾 和郎、岡庭信司、田中信次、千葉祐子、西川 徹、西村重彦、三原修一、依田芳起

外部委員：足立雅樹、新 智文、和田高士

委員会開催：5回（うち持ち回り2回）

1. 第1回ワーキング会議（第58回総会時）

1) アンケート結果の確認

実施期間 2019年2月

回収数：総合計 419施設

- ・消化器がん検診学会（対象：超音波検診委員、ワーキング委員、全国集計協力施設）回答数 131施設
- ・人間ドック学会（対象：機能評価認定施設）回答数 65施設
- ・超音波医学会（対象：正会員（臨床医）および準会員（検査技師））回答数 174名
- ・全衛連（対象：精度管理参加施設）回答数：49施設

2) 4グループに分け作業していくことになった。

- ①実施基準およびカテゴリーや判定区分の総論
- ②肝・脾
- ③胆・膵
- ④腎・その他

2. 第2回ワーキング会議（日本人間ドック学会第60回学術大会時）

日本人間ドック学会第60回学術大会での3学会共同企画「腹部超音波検診判定マニュアルの改訂に向けて：アンケート調査から見えた課題」の発表内容を確認した。

3. 第3回ワーキング会議（JDDW2019時）

- ・各グループの改訂案の確認を行った。
- ・カテゴリー3のハイリスク、パニック値の扱い、カラードプラ法の活用について検討した。

胃 X 線読影補助認定委員会

担 当 理 事：加藤勝章

委 員：安保智則、井上和彦、入口陽介、松浦邦彦、山道信毅

(e-learning 小委員会：山道信毅 (幹事)、青木利佳、安保智典、井上和彦、入口陽介、伊藤高広、小田丈二、萩原 武、加藤勝章、千葉隆士、満崎克彦、安田 貢)

委員会開催：5 回 (うち持ち回り 2 回)

1. 読影補助認定について

資格要件 (胃がん検診専門技師による読影補助認定制度施行細則第 3 条より抜粋)

- (1) 2016 年 3 月 31 日までに入会している継続 5 年以上の本学会会員で、専門技師としての実務経験が 5 年以上あること
(但し、専門技師資格保留者は申請できません)
- (2) 申請時までの過去 3 年間に本学会の総会、大会 (JDDW)、支部主催の地方会のいずれか 1 回以上出席があること
- (3) 本学会が主催する胃がん検診専門技師研修会に申請時までの過去 3 年間に 1 回以上出席があること
- (4) 本学会の胃 X 線読影判定講習用 e-ラーニングの修了証を有していること
- (5) 撮影実績は、申請時までの過去 5 年間で総数 1,500 例以上の胃 X 線検診実績報告書 (対策型・任意型実施数を記入する所定の書式のもの) を提出すること。実績証明には申請時に所属する施設長の承認印が必要である

尚、NPO 法人日本消化器がん検診精度管理評価機構が実施する試験 (技術 B・読影 B) は本制度の認定に必須の要件ではない。

2. 読影 e-ラーニング講習について

構成

1. 講義 15 分×3 講義

- ①「胃がん検診専門技師による 読影補助認定制度の概説」 講師：加藤 勝章
- ②「*H. pylori* 感染胃炎の胃 X 線診断について (背景胃粘膜診断)」 講師：安田 貢
- ③「胃 X 線検診のための読影判定区分～読影補助における運用法の相違点～」 講師：安保 智典

2. 症例問題 50 問

3. 読影補助認定申請のスケジュールについて

- ・e-ラーニング講習受講期間 3 月 1 日～5 月 31 日まで
- ・読影補助認定申請書入手期間 3 月 1 日～3 月 31 日まで
- ・読影補助認定申請書提出期間 4 月 1 日～6 月 30 日まで
- ・認定証発行 9 月または 10 月

大腸 CT 検査技師認定委員会

担当理事：野崎良一

顧問：斎藤博

副委員長：永田浩一

委員：富松英人、服部昌志、松本啓志、安田貴明、高林 健、遠藤俊吾、八坂貴宏、松浦邦彦、松田尚久

委員会開催：3回

1. 大腸 CT 検査技師認定制度を設立し、制度規程を確定し、学会誌や学会 HP で公開した。
2. 第1回と第2回の大腸 CT 検査教育研修会・大腸 CT 検査実践トレーニングコースプログラム、講師が検討、決定された。

また、受講申込や受講料支払いは WEB 上で行うことも決定された。

プログラムについては、各回でプログラム構成、総時間、講習内容についてばらつきのないものとして、アップデートや改定を除き同一の内容になるよう努めることとされた。

第1回大腸 CT 検査教育研修会 担当者

「開会・閉会挨拶」 野崎委員長

「総論」 永田副委員長

「各論・前処置法」 服部委員

「各論：撮影法・読影の概略」 松本委員

第1回大腸 CT 検査実践トレーニングコース 担当者

司会・操作 高林委員、

サポート 野崎委員長、永田副委員長、服部委員、松本委員

第2回大腸 CT 検査教育研修会 担当者

「開会・閉会挨拶」 永田副委員長

「総論」 富松委員

「各論：前処置法・撮影法」 遠藤委員

「各論：読影の概略」 八坂委員

第2回大腸 CT 検査実践トレーニングコース 担当者

司会・操作 安田委員、

サポート 永田副委員長、富松委員、遠藤委員、八坂委員

3. 大腸 CT 検査技師認定制度では、大腸 CT ハンズオントレーニングコースに参加できない技師のために、テキスト「症例で学ぶ大腸 CT 診断」を使用して 20 症例の読影トレーニングを実施したレポートを提出することでも単位取得できるよう制度設けた。

テキストの使用承認、及び、印税に関する利益相反抵触を避けるための著作権変更も承認された。